

# 令和5年度 東北支部研究発表会—12セッション計56編の発表会 東北支部総務企画委員会

## 1. はじめに

東北支部では毎年3月に、研究発表会を開催してきた。卒業論文や修士論文の成果を発表する学生や、日頃の研究成果を発表する社会人などが一同に会し、研究交流を図る場として継続開催している。本年は2024年3月10日に東北大学災害科学国際研究所にて開催され、発表者56名を含む約80名にご参加いただいた。限られた紙面に凝縮する形にはなるが、各セッションでの発表や研究交流の様子に関して、総務企画委員よりご紹介させていただく。

## 2. 各セッションの様子

### ◆樋口秀（新潟工科大学）

会場A第一セッションの司会を担当した。福島大学から原子力被災地の起業支援の現状と課題、南相馬市小高地区のwell-beingに関する研究報告、東北大学から避難指示解除前後の檜葉町での建築動向と土地利用変化、石巻市での復興期別の住宅建築場所の分析、令和元年度東日本台風後の宮城県丸森町での防集によらない集団移転について詳細な研究報告があった。支部内での被災地に寄り添った課題究明が長期支援につながっており、支部会員による情報発信・共有と議論が未来につながる力になると感じることができた。

### ◆村上早紀子（福島大学）

会場B第一セッションでは、中心市街地の活性化に向けた取り組みに関する研究発表や、近年各地で実践が進められている「ほこみち」に関する研究発表があった。公共施設や道路、駐車場などの空間に着眼した研究のみならず、空間を活用していくための組織や人に着眼した研究もみられ、東北地方の今後がよりいっそう期待されるような研究成果が窺えた。

### ◆谷本真佑（岩手大学）

会場C第三セッションの司会を担当した。本セッションでは、主に地域の維持や活性化をテーマとした研究発表が行われた。関係人口の創出を目指す取り組みや、若者の定着に向けた施策、ニュータウン住民の満足度や地域活動に関する発表があり、活発な質疑応答がなされた。これらを通して、地域や住民との繋がり的重要性を改めて認識させられた。

### ◆高澤由美（山形大学）

会場C第一セッションでは、空き家や空き地など低未利用地に関する研究発表が行われた。それぞれの狭義の目的は異

なるものの、人口減少社会において共通する重要なテーマだけに、フロアからは、調査結果に基づく事業や政策提言の可能性について等、広く将来を念頭においた具体的な議論が活発になされた。

### ◆土井良浩（弘前大学）

会場D第一セッションの司会を担当した。地方創生総合戦略、都市計画行政、スポーツ政策の分析・評価や、居住環境としての都市の認識・選択構造の分析・考察を行った5つの発表・報告があった。学部生から初代支部長までが一同に会し、テーマが身近でイメージしやすく、支部発表会ならではの“丁度いいスケール感”であった。

### ◆小地沢将之（宮城大学）

会場D第四セッションでは、立地適正化計画4題の発表が行われた。中間評価に関するもの、広域計画に関するものなど、最新のトピックを扱った発表もあった。東北地方では早期に計画策定を行った自治体が比較的多いため、質疑応答においても具体的な事例に照らしながら充実した議論が行われた。

### ◆荒木笙子（東北大学）

会場D第二セッションの司会を担当した。公共施設等総合管理計画による整備実態、Park-PFI導入自治体の人口特性、市民参画事業の検証、住宅の立地誘導に伴う課題、非線引き白地地域に開発された住環境評価の研究まで、官民にまたがる様々な発表があった。研究の展開に向けたアドバイスや的確な質問が飛び交い、活発な議論が行われた。



写真 研究発表会の様子